

唐丹希望基金「あの日 あの時」

【7】唐丹希望基金に降り注ぐ「見えない恩恵」

唐丹希望基金代表 高舘 千枝子



【2012年3月14日唐丹中学校卒業式の日々に1年生の子供たちと。来春、高校生デビュー！】

あと、4ヶ月で「唐丹希望基金」の幕を閉じます。先の事を考えず、夢中で始めた募金活動でしたが、振り返ると9年の年月があっという間に過ぎた感があります。5月から活動の行程を振り返ってきましたが、もう一つ書き留めたい事があります。それは、多くの唐丹基金への協力者、理解者、実力者と出会う事によって、計画した教育支援金を届け、学校が希望したグランドピアノも寄贈することが出来た陰には、「見えない力が唐丹希望基金に降り注いでいた」という事です。1年目の活動は、出来るだけたくさんの募金を集め、被災地に届ける事で精いっぱいでしたが、2年目から募金が減り始め、様々考えさせられ、これまでの私の態度で反省しなければならない事に気が付きました。

第一は、「もし、私が募金者だったら、主催者に対してどんな事を望むだろうか？」と考えた時、頭に浮かんだ言葉がありました。「あなたが、人々にしてほしいと思うことを、人々にもその通りにしなさい。」という教えでした。毎月、大切なお金を募金して下さる人たちへ、月初めのHP-更新時にEEC通信をホームページに掲載して報告することで、満足していた私の態度を反省しました。改めて「自分だったら、主催者にどのような事を望むのだろうか？」と問い直し、領収通知書に1ヶ月の募金総額、募金者、子供たちの様子、被災地の現状、唐丹基金活動の報告を書き込んで送る事にしました。また、「確かにお預かりした募金を、唐丹の子供たちへ届けます。」

という感謝をいち早く伝える方法として、その日の夕方5時まで、報告書と領収書の投函に努めました。学校行事へ招待を受けた時は、参加者に感想を書いていただき、毎月、HP-EEC通信に掲載し、HPを閲覧できない人には、領収書と一緒に郵送しました。今では、このような生活スタイルもすっかり身に付き、活動が進むにつれ、EEC通信の内容や学校から届く子供たちの写真も豊富になってきて、私自身の張り合いになってきたことは、大変、喜ばしい事でした。

第二に、唐丹希望基金に「人の力では及ばない目に見えない力が働いている」ことを自覚しました。多くの人から言われた言葉の一つに「唐丹希望基金の活動は素晴らしいですね、こんなに長い募金活動は、大変、珍しい！堀さんに出会って良かったですね！」と、何度も言われました。私も「全くその通り！」と、心底、思っています。堀さんの国内外の豊富な人脈を通し、募金が寄せられ、支援計画の全てを叶えることが出来ました。が、その陰に潜む目に見えない力が働いていることも忘れてはいけないとも思っています。このような思いに至った理由は、若い頃に知った教えの一節にあります。「私は植えアポロは水を注いだ。しかし、成長させてくれるのは別な力によるものである」の教えが、私の中にしだいに響いてくるのでした。**唐丹希望基金は、東日本大震災被災者に寄り添う大切な働きとして、何か、見えない力に導かれている…と。**

私は、東日本大震災の惨状を見て、極度の精神異常に陥り、「無謀で危険すぎる」という助言にも耳を傾けず、一人で小舟を沖へ漕ぎ出しました。その結果、次々、困難に直面するのですが、その危機を救ってくれたのは、報道機関の呼び掛けに答え、募金に応じた支援者の方々でした。様々な危機に合っても、安全な港へ引き返す事など考えられませんでした。それは、被災した人たちの苦悩に比べたら、唐丹基金に降りかかった苦痛など無に等しく思えました。天真爛漫な笑顔で私たちを迎え入れた子供たち、家庭では親の辛さを知りながらも無邪気な笑顔を見せ、両親に元気を与える子供たちの必死な努力に比べたら、それは、とても小さく、些細な事と思えました。この想いをEEC通信で発信し続けるうちに、しだいに、活動を支持し、様々な能力を持つ人々が、唐丹基金と繋がるようになり、その方たちの力でここまで歩む事が出来ました。**子供たちへの深い想いが、教育支援金となって、毎年届ける事ができ、グランドピアノの寄贈も叶えられた感謝をどのような形で表せば良いものか…？**一度もお会いしていない大半の支援者の皆様、唐丹希望基金に働いた見えない力が、全ての困難を克服する原動力になりました。「信頼・絆・感謝」が心に深く沁み込んできます。

第三は、人生は「順境・逆境・新境地の世界を歩んでいる事」を知ったことです。2017年1月19日、日本福音ルーテル社団主催 公開講座(講師：キャロル・サックさん)に参加しました。「人生の3つの局面」を旧約聖書 詩編 23 編を引用した1時間30分の講座でした。一生の間に、間違いなく誰もが直面する3パターン(局面)とは、どのようなものなのか。それは、いつ、どのような形で訪れ、どのような形で次の局面を迎え、その時の心理がどのように変化していくかという、人が一生のうちに経験する「魂の世界」の講義でした。**一つ目の局面はすべてが順調に進み、賛美と感謝、安定に満たされ「人生が守られた状態で機能している、順境の時期」。****二つ目は順境と正反対の「逆境の時期」。**原因は仕事関係かもしれないし、人間関係によるものかもしれないし、病気の検査結果からくるかもしれないし、自然災害を被ったことからかもしれない・・・ありとあらゆる人間の営みの中にその原因は潜んでおり、誰にでも、いつか必ず訪れる人間の宿命でもある。**三つ目の局面は新境地の世界である。**何も、期待していない時に、贈り物の人生が訪れるというのです。それは、昔と同じ幸せな時期に戻ることはなく、新たな道が開かれる新境地の人生なのだと言います。**暗闇の中を潜り抜ける経験をしてたどり着く所が新**

境地で、今までの人生より豊かでより深い人生と思えるのが“新境地”なのだと、キャロルさんは語りかけます。

私は、詩編 23 編の 3 つの境地（順境・逆境・新境地）を 2011 年 3 月 11 日、東日本大震災教育支援活動「唐丹希望基金」の 9 年の歩みに置き換えて考えてみました。あの苦しく、辛く、悲しい出来事を目の当たりにし、藁をもつかむ思いで募金活動を始めました。その間に、何度も訪れる募金活動の危機を迎えましたが、その時の状況に最も相応しい奇跡的な出会いが訪れ、活動が維持され目標の支援金を届けることができました。私自身、この経験によって震災前の人生より心がより深くなり、充実していることを感じるのです。これこそ、まさに“新境地”です。

この経験の中から新たな思いが生まれました。それは、東日本大震災という辛い経験をした唐丹の子供たちと共に「平和を求める人間」として生きる事です。のどかな唐丹の海に守られ、穏やかな生活「順境」を営んでいた子供たちは、2011 年 3 月 11 日の震災で、突如「逆境」の境地へ引き込まれ、どん底に落ちました。かけがえのない命、財産が奪われ、どんなにか悲しかった事でしょう、辛かった事でしょう、涙が枯れるほど日々泣き続けた事でしょう。それは、経験した人だけが知る、想像を絶する「逆境」を受け入れざるを得ませんでした。

キャロルさんは「逆境を経験した人は、人の痛みが分かり、本当のやさしさを知っている」と語ります。そして、逆境の次に訪れようとしているのが「新境地」なのだと。

それは、決して、以前の生活に戻るのではなく、暗闇の中を潜り抜ける経験をしたからこそ「今までの人生より豊かでより深い人生と思えるのが“新境地”」と語ります。

これから先も「新境地」を求める「人生の旅」が続きます。唐丹の子供たちと一緒に「死」の入り口まで「3 つの境地（順境・逆境・新境地）」の人生を楽しみたいと思います。子供たちに迎え入れられた 9 年間の経験は、私の人生をいつまでも照らし続けることでしょう。



「I, YOU, WE」 <https://www.youtube.com/watch?v=GWB1O7Lgtr8> 2016/07/07 公開

2016 年釜石市唐丹町片川交流会 ハープ、歌：キャロル・サック（日本福音ルーテル社団）

キャロル・サック (Carol Sack)



アメリカ福音ルーテル教会 (ELCA) の宣教師として 1982 年に来日。

2000—2002 年、モンタナ州ミズーラにある「安らぎの杯プロジェクト」(Chalice of Repose Project School of Music Thanatology) にて音楽による死の看取りを学び、音楽死生学の分野で資格認定を受けて日本に戻る。

2006 年、日本福音ルーテル社団 (JELA) が主催し、音楽死生学に独自の要素を加えて発展させた 2 年間の研修講座「リラ・プレカリア (祈りのたて琴)」を立ち上げ、終末期にある人だけではなく、心身の苦難にある人びとにもハープと歌による生きた祈りを届けるボランティアに励んでいる。

・リラ・プレカリア公開講座 <https://www.youtube.com/watch?v=jG1XBCV-FNs>

・2011—2013 年 唐丹小・中学校訪問。唐丹サントラルチア祭でプレイヤーショールを贈り、ハープと歌で子供たちの心に寄り添いました。 <http://eec-2020.com/tushin/eec/108tushin.pdf>
現在も唐丹小・中学生と交流をしている。

・2016 年 11 月 NHK ラジオ深夜便「明日への言葉」出演。「好きなハープで、心に寄り添う」。

・2018 年 11 月 NHK テレビ出演。「心の時代～宗教・人生～」祈りの堅琴

唐丹希望基金では、唐丹中学校卒業時にハソウ（プレイヤーホルン）に、渾身の想いを託し2018年3月卒業生から贈っています。人生の岐路に立った時、**フレジャーホルン**を思い出して下さい。

◆唐丹希望基金の願い：<http://eec-2020.com/tushin/eec/112tushin.pdf>



“鎮魂と平和の笛壺 **フレジャーホルン**”

人生の旅路は

喜びで幸せに満ち溢れるときだけではありません。

困難、挫折、悲しみ、苦しみにも遭遇します。

どんなに険しい上り坂も、喜びにあふれ幸せな時にも

「真実な道」を求めて進む先に

愛と感謝に満ちた世界があることを忘れないでください。

あなたが「鎮魂と平和」の心を失わずに

生きる姿を**フレジャーホルン**は見守ります。

★悲しいとき、ハソウを吹いてください。

多くの人々が悲しみを乗り越え、

あなたがここに存在するを感じ、

元気が出るでしょう。

★うれしいとき、ハソウを吹いてください。

喜びが大きくなり、更に前へ進む気持ちが

湧きあがるでしょう。

★ハソウに花を活けてください。

あなたの部屋が清らかさで満ちるでしょう。

★ハソウを友とし、元気に生きてください。

あなたの未来はきっと明るく

幸せなものになるでしょう。

(ハソウ入手方法：<http://eec-2020.com/daihyo/sakaguchi/minihhasou.pdf>)